
雨の死神

翳鴉

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の死神

【Nコード】

N2926Z

【作者名】

翳鴉

【あらすじ】

雨の日に一人立っている少女。そんな所に幼い少年が傘を渡してくれた。

そして10年後…。

プロローグ

ある雨の日　　。

「…誰も、僕の事を信じてくれない。」

雨の日　　。

「…世界が無くなれば良い。」

雨の日　　。

「…人間など…所詮…。」

少女は一人、雨の中を歩いていた。

「ちょっと、お姉ちゃん。」

「…!?!?。」

幼い少年は少女に話しかけてきて、傘を渡した。

「お姉ちゃん、風邪引く。」

「…なぜ…?。」

「だって、母ちゃんも父ちゃんも人には優しくしろって?。」

「!?!?。そうか。」

「じゃあね。」

幼い少年は雨の中を走って行った。

そして、少女はどこかに消えていってしまった。

「…雨が好きな人間はいるのだろうか……。」

1句 日常変化

「要！さつさと起きる！」

ガラッ！ガラッ！

女の人が部屋のカーテンを開ける。

「ん？…。」

ベッドには、少年が寝ていた。

「要！さつさとおきなさい！」

「…今何時？」

「7時45分よ。」

「…ふわあ…。」

少年は用意を始める。

「朝ごはんできてるから。」

「ん。分かった。」

少年はあいまいな返事をする。

少年の名前は『時雨^{しぐれかなめ}要』中学2年生。

要の中学校は学ランではなく、高校生などが着る制服でいいらしい。

「はい、要。お弁当！」

「ありがとな、ねえちゃん。じゃあ行ってくる。」

要は口にパンをくわえて家を出た。

「…………。」

要はとても、マイペース。

「うわぁーん！」

子供が道中で泣いていた。

「ん？…どうした？」

「お母さんがいなくなったの。」

「そうか、じゃあお兄ちゃんが一緒に探してやるよ」「ニコッ
「ありがとう！」

そして、要は子供の母親を見つけて、学校に向かう。

時刻08:10。

「ん？あつゴミ。」

要は道に落ちてるゴミを公園のゴミ箱にまで入れる。

「はあゝ…今日も平和な日常だなあゝ」

要はとても親切？というか、そう言う”正義感”がある。

「あつ…遅刻するな。」

要はパンを全て食べる。

そして、いつものように、登校する。

「ふわあゝ…眠い。」

「おつす！時雨！」

「ん？…澤倉？なんだ？」

「相変わらずだな。お前は。」

「???。」

「いいから、さっさと行かないと遅刻するぞ!!」

「知ってる。」

要は成績優秀、女子にも男子にもそこそこ人気者。
先生にも頼られる事が多いが。

あまりのマイペースに結構ウザがられる事もある。

ガラッ

教室に入り、席に着く。

要の席は窓際の一番後ろの席。

「時雨君！ここ、教えてほしいの。いいかな？」
「ん？…別にいいけど。」
要は誰にでも親切で優しい。

タツ…。

「…雨が降ってない日は嫌いだ…。」
電信柱の上に立つ少女、小さな傘を広げていた。

「雨…。」

「雨がどうかしたの？時雨君？」

「いや…。」

要は窓から外を見る。

ガラッ

「……要！！！」

「ん？」

バコンッ！！

「！？…。」

「時雨君大丈夫？」

いきなり要が少女に殴られる。

「痛ッ…。」

「あんたね！告白されてもつと言い方とか無いわけ！！」

「…呉羽？…。」

「聞け！！人の話！」

少女の名前は『笹野呉羽』みさのくれは 要の幼馴染。

「何？…。」

「昨日、告白されたんでしょ？なら！断る言い方を考えろ！！！」

「……はあ……悪かったよ。」

「!?…私に謝られても困るし！」

要は素直に謝る。呉羽は頬を赤くして目をそらして言う。

「俺に告白しても、意味無いのに。」

「えっ? どうしてよ?」

「俺、幼い頃からずっと思ってる人がいるしな。」

! ? : ;

「えっ！！！！！！！！！！」

クラス中、全員が驚いていた。

┐
?
?
┐

「時雨要。ボソツ」

少女は、傘の持つところに書いてある名前を読んだ。

2句 始まりの出会い

「…匂う。」

少女は突然電信柱から消えた。

ドクンッ！

「！？…。」

「時雨君？」

「あついや…なんでもない。」

要は少し顔色が悪かった。

なんだ？今の違和感…。

そして、空は曇り。

やがて、雨になった。

「雨だ、天気予報と違う。」

「…雨…。」

ドクンッ！

「…！？…。」

「…人間とは、珍しい物だ…。」

「！？…お前は誰だ！」

「！？…えっ？時雨君？」

「あつ…ごめん。」

要はそつと教室から出ていった。

「見つけた。」

「えっ！？…。」

要が廊下に出る、そしたら窓から化け物が要を襲つ。

「！？…。」

スッ！

「なっ！？」

「居ない。」

化け物は消える。

タッ

「…平気か？…。」

「あつ…おう。」

「…あまり、浮かれていると喰われるぞ…。」

「喰われる？」

「…呆れる、まあいい。」

傘を持った少女は呆れた顔をする。

「お前は？誰だ？」

「…雨神。^{うしん}」

「つて…なんで俺雨降ってるのに、ぬれてないんだ？」

「…それは私が神だから。」

「神？」

「見つけた。」

「…チッ…。」

雨神は要を抱えて、飛ぶ。

「なんだアレ！」

「…あれは、”死魔^{カク}”能力を持っている人間を喰う。」

「何！？…。だけど俺には能力なんて…。」

「…ある。かつて私がお前に授けた能力。」

「はあ？」

タツ

地面に着地して、走る。

「…雨、突き刺され。」

雨神が傘を化け物に向ける。

そして、雨は氷のようにとがる。

そして、化け物に突き刺さる。

「グワアアアアアアア！！！！」

化け物から、血が大量に出てくる。

「…逃げるぞ。」

「あつ！！。」

「…人間は本当に哀れだ。」

「……。」

『お姉ちゃん、濡れちゃうよ。』

なぜだ…なぜ、歳を取っていない。

「…再生を始めたか。」

「えっ？」

化け物の傷は全て再生する。

「…さつさと、目を覚ませ！」

「！？…俺に言われても困る！」

「…我は神、雨を宿す…その力で我の力となれ！」
雨が化け物に降り注ぐ。

その雨はとても暑い雨。

「グワアアアアア！…！」

「…あいつはあんな攻撃じゃ、死なない。」

「えっ？…神だろうあんた！」

「…私は、お前に力をあたえ、もう半分しか力が無い。」

「！？…。」

「…思い出せ！あの日私とであつた思い出を！」

ドクンッ！

「！？…。」

要の様子がおかしかった。

「…人間、力がほしいと思わないか？」

「ほしいよ、誰かを守るようなそんな力が。」

「…なら私がやろう…また10年後その力は発揮される。」

「お姉ちゃんと出会うか分からないよ？」

「…それもそうだな。」

「！？…雨神とであつたあの日…俺は死神になった！」

3句 死神から貰った力

「…その力は何でも出せる力。」

「何でも？」

「…要が望めば何でも出る。」

「分かった。」

要は集中する。

俺が望む…俺は、死魔^{こいつ}を倒す力がほしい。

「…そうか、なら私がやろう。その力を。」

「はあ？…。」

「…。」

「！？…。」

雨神が要にキスをする。

ドクンッ！

「！？…。」

要の手から剣が出てきた。

「なっ！…剣？」

「…要にはよく似合っているな。」

「そうか？まあ良い！」

「グワアアアアアアアアア！……！！！」

死魔が叫ぶ。

「…お前の力を発揮しろ。」

「分かってる！！」

要は剣を強く握る。

「うわあああああああ！！！！！！」

ジャキッ！！！！

「グワアアアアアアア！！！！！！」

死魔は真つ二つになって、血を流して倒れて消えた。

「…やったのか？」

「…ああ、よくや…。」

ガクッ！

「雨神！」

雨神が突然しゃがみこむ。

「…大丈夫だ、ただ力を使いすぎただけだ…。」

「そうか？なら、いいけど。」

雨神は立ち上がる。

「…それで、要は家に帰るのか？」

「あつおつ、雨神は？」

「…私に家など無いが…今は雨が降っている傘。」

「あつ…これ、昔俺が…。」

要が傘を見て言う。

「捨てないで居てくれたんだな！ありがとな！」ニコッ

「…別に、気に入っただけで…。」

「まあ、だけど、ありがとう！」ニコッ

「…いいから、さっさと帰れ。私は要の見張りをしている。」

「はいはい！じゃあな！雨神！」ニコッ

「……。」

そして、傘が無くなった途端に、雨神に雨が掛かった。
要を見ると、まったく濡れていなかった。

「…傘が無いと、自分自身じゃいられない…。」

雨神の体が少し震えているように見える。
そして、いつしか雨神は消えていた。

「……………」

あの時も、何も無い私に、あの子供が話しかけた。

こんな化け物みたいな私に、傘を渡してくれた。

嬉しかった。

こんな人間もいるんだなって思えて…。

「要…。」

雨神はビシヨ濡れになりながら、一人で歩いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2926z/>

雨の死神

2011年12月13日19時58分発行